

「次代へつなぐ森林と木の文化」を 国際森林デー2019で発信

毎年3月21日は、森林や樹木の重要性について意識を高める記念日「国際森林デー」です。2012年に開催された国連総会にて決議され、自治体や国、国際的なレベルで、森林や樹木に関連した活動や、イベントなどを行うことが推奨されています。

我が国の国内イベントとして、3月23日に「国際森林デー2019みどりの地球を未来へつなぐ森林と木の文化」が、東京都江東区新木場の木材・合板博物館で開催されました（主催：国際森林デー2019中央行事実行委員会（公社）国土緑化推進機構、（公財）オイスカ、（公財）森林文化協会、NPO法人樹木・環境ネットワーク協会、（公財）PHOENIX（木材・合板博物館）、（一社）TOBUS A、林野庁）。

イベントでは、宮田亮平文化庁長官と牧元幸司林野庁長官の対談、留学生らによるお楽しみコンサートが行われた後、木工教室、森林が持つ様々な役割などを伝えるショー、留学生との国際交流会が行われ、多くの方が森林について考え、木に触れる一日となりました。

対談「次代へつなぐ森林と木の文化」

対談では、まず牧元林野庁長官から、人々が木を暮らしの中に活かしていたこと、宮崎県の伝統芸能である高千穂神楽等の紹介から、林業を始めとする生業と文化を残すことが地域振興の源になっているとの話題が提供され、宮田文化庁長官からは、木造建築物だけではなく、曲げわっぱなどの生活用品、仏像などを示しながら、木には色々な使い方があり、人間と木が上手く共存してきたことについてのお話がありました。

次に、そうした森林と木の文化をどう傳承するかという観点から、「聞き書き甲子園」などの取組をきっかけとして、若い人が地域の担い手として活躍し、地域に良い影響を与えていることや、文化庁が示した文化財修復に国産漆を原則使用するという方針により各地の漆の産地が動き始めているという紹介があり、文化の傳承の必要性が確認されました。

最後に、牧元林野庁長官から会場の参加者に日本の山村や木材製品の素晴らしさを世界に発信してほしいこと、新しい動きである森林サービス産業（特集参



対談の様子

照）に興味を持ってもらいたいこと、木を使ってほしいことが提案されました。宮田文化庁長官からは、木のぬくもりや年輪などを感じることで人が豊かな気持ちになれること、それが生活の励みになることから、木を活かしていくべきとお話があり、和やかな雰囲気の中、対談が終了しました。



コーディネーター葛城奈海氏



左から宮田亮平文化庁長官、牧元幸司林野庁長官



対談テーマに合わせて樹木漫画「リン子の絵日記 (ウルシ編)」を展示



お楽しみコンサート 留学生とソプラノ歌手雨谷麻世さん

交流会

対談とお楽しみコンサートの後は、木材や合板などの木質材料を使った自由工作、バタナ이프の磨き仕上げや木の小皿制作ができる「木工教室」、森林が持つ様々な役割とその大切さを伝える「森の教室 どんぐり」と森の仲間たちのショーが行われたほか、国際交流会として、森林の整備と生き物の関係を学ぶ「ぼくらの里山いきものゲーム」、折り紙を通じて熱帯の森林の恵みを学ぶ「熱帯の動植物のおりがみ」、間伐材を使ったつみ木で遊ぶ「森のつみ木広場」が行われました。また、木材・合板博物館の館内見学も行われ、森林や森林に住む生き物たちについて学び、木工やつみ木遊びを通じて木の良さを感じていただく時間となりました。



森の教室 どんぐりくんと森の仲間たち



木工教室



ぼくらの里山いきものゲーム



熱帯の動植物のおりがみ



森のつみ木広場



木材・合板博物館の館内見学